

# 長野県における小児在宅医療の推進



長野県立こども病院 患者支援・地域連携室長  
藤岡文夫

# 長野県立こども病院

- 1993年 5月 開設(60床)
- 2000年 9月 総合周産期母子医療センター 開設
- 2009年 2月 在宅支援病棟(11床)開設
- 2010年 4月 地方独立行政法人長野県立病院機構へ
- 2012年10月 170床へ(NICU3床増、PICU後方病床4床)

- 病床数 170床
  - NICU 42床(うちGCU18床)
  - PICU 8床
  - 産科病棟 27床(うちMFICU6床)
  - 一般病棟 93床  
(うち在宅医療支援11床、PICU後方4床)

- 医師 112名(常勤83名)
- 看護師・助産師 281名(助産師21名)
- 保健師 2名
- 医療技術職 63名



人口: 2,129,313人  
 出生数: 16,887人  
 (平成24年)



# 長野県の状況

## ■ 長野県

- 人工呼吸器を装着した児 100人前後
  - 在宅:約50~60人
  - 入所:約40人
  - 長期入院児:13人

(長野県長期入院児等支援コーディネーター 河野先生推計2011年)

## ➤ 長野県立こども病院で把握している人工呼吸器装着患者

- こども病院管理中 16名
- こども病院待機中 5名
  
- 他院管理中 16名
  
- こども病院 気管切開患者 14名



# 多職種連携に関する地域の課題

- 重症小児をケアする人材の不足、当事者の不安
  - こども病院への依存意識が強い
  - 医療的ケアを実施する上での不安
  
- 多職種の連携を確立しにくい
  - 面積が広く、山間部が多い地理的要因
  - 資源が都市部に偏在
  
- 教育機関との連携不足
  - こども病院における人材不足





# 資源マップ 診療所例



# 資源マップ トップページ

<http://www.pref-nagano-hosp.jp/kodomo/zaitaku/zaitakumap.html>

医療的ケア児 受入施設

在宅拠点事業 長野県医療的ケア児 受入施設の紹介 - Beta版 -

 **一覧で確認**  
受入可能施設を一覧表でご案内します。  
施設を一覧から選び、地図上で場所を確認することができます。

 **地図で確認**  
受入可能施設を地図でご案内します。  
場所を確認してから詳細を表示することができます。

○病院	<a href="#">受入可能</a>	○病院	<a href="#">受入可能</a>
○診療所	<a href="#">受入可能</a>	○診療所	<a href="#">受入可能</a>
○福祉事業所 他	<a href="#">受入可能・要相談・受入困難</a>	○福祉事業所 他	<a href="#">受入可能・要相談・受入困難</a>
○訪問看護ステーション	<a href="#">受入可能</a> <a href="#">条件次第</a>	○訪問看護ステーション	<a href="#">受入可能</a> <a href="#">条件次第</a>

**ご注意**  
※マップをご利用になるには、JavaScript が有効になっている必要があります。  
※スマートフォンや携帯電話からの閲覧には対応しておりません。

**リンク**

- [長野県薬剤師会へのリンク](#)  
長野県薬剤師会会員の在宅医療支援薬局をご案内しています。(在宅医療支援薬局マップ)
- [日本障害者歯科学会へのリンク](#)  
障害がある方々への歯科医療に関する情報発信などを行っているサイトです。  
認定医のいる施設をご案内しています。
- [長野市歯科医師会へのリンク](#)  
長野市歯科医師会会員の訪問歯科診療・障害者歯科診療医院のご案内をしています。

# 資源マップ リスト形式 診療所例

医療的ケアの必要な小児の受入可能 診療所一覧

[メニューへ戻る](#)

※ 外来・・・外来診療、訪問・・・訪問診療、成人・・・成人移行受け入れ、入院・・・小児レスパイト入院受け入れ

医療機関名称	住所	電話	外 来	訪 問	成 人	入 院	地 図
医療法人花と実栗の木診療所	〒381-0201 上高井郡小布施町大字小布施2252	0262-42-6565	×	○	○	×	<a href="#">Map</a>
小池医院	〒382-0000 須坂市小河原1 885-10	026-215-2220	×	○	○	×	<a href="#">Map</a>
平野内科小児科医院	〒380-0803 長野市三輪1 247	026-235-2611	×	×	○	×	<a href="#">Map</a>
居町往診クリニック	〒380-0901 長野市居町72-1 グランシティ居町102号	026-263-2557	×	○	○	×	<a href="#">Map</a>
医療法人大和真田会 ましまクリニック	〒381-2204 長野市真島町真島2209番地	026-284-2052	○	○	○	×	<a href="#">Map</a>
佐久長土呂クリニック	〒385-0000 佐久市長土呂803-26	0267-68-7899	×	○	○	×	<a href="#">Map</a>
はーぶの里診療所	〒399-8602 北安曇郡池田町大字会染4855番地1	0261-62-0210	○	○	○	×	<a href="#">Map</a>
あかはね内科・神経内科医院	〒394-8512 松本市神林3561-1	0263-59-7810	○	○	○	×	<a href="#">Map</a>
宮坂医院	〒392-0006 諏訪市元町4-10	0266-52-1083	×	○	○	○	<a href="#">Map</a>
ハヶ岳診療所	〒391-0100 諏訪郡原村3909-14	0266-79-7001	×	○	○	×	<a href="#">Map</a>
JA厚生連富士見高原病院附属中新田診療所	〒391-0100 諏訪郡原村13221-2	0266-70-1331	×	○	○	×	<a href="#">Map</a>
国民健康保険川上村診療所	〒384-1406 南佐久郡川上村大字原308	0267-97-3216	○	○	○	×	<a href="#">Map</a>
まえやま内科胃腸科クリニック	〒399-4117 駒ヶ根市赤穂14632番地4	0265-82-8614	×	○	○	×	<a href="#">Map</a>
三浦医院	〒395-1101 下伊那郡喬木村849-10	0265-33-2030	×	○	○	×	<a href="#">Map</a>
曾我医院	〒395-0817 飯田市鼎西鼎20番地2	0265-22-1653	×	×	○	×	<a href="#">Map</a>
医療法人 羽生内科診療所	〒395-0805 飯田市鼎一色45-2	0265-24-1250	×	×	○	×	<a href="#">Map</a>
売木村国保直営診療所	〒399-1601 下伊那郡売木村695	0260-28-2014	○	○	○	○	<a href="#">Map</a>
斎藤診療所	〒399-4301 下伊那郡宮田村3598-3	0265-85-4817	×	○	○	○	<a href="#">Map</a>

[メニューへ戻る](#) [ページのTOPへ](#)

# 小児在宅受け入れ確認アンケート

	送付先	回答数	回収率(%)	小児可能
病 院	100	59	59	23
診療所	225	97	43.1	24
訪問看護ステーション	133	74	55.6	16+24
福祉事業所(児童デイ)	55	31	56.4	20





# 診療所・訪問看護ステーションの受け入れ条件

## ◆病院のバックアップ体制

365日24時間の病院医療のバックアップ

緊急入院や相談できる体制などのバックアップ

増悪時のサポート体制がしっかりしていること

## ◆連携・協力・家族の理解

病院との連携が良好にできていること

小児科医との連携があれば

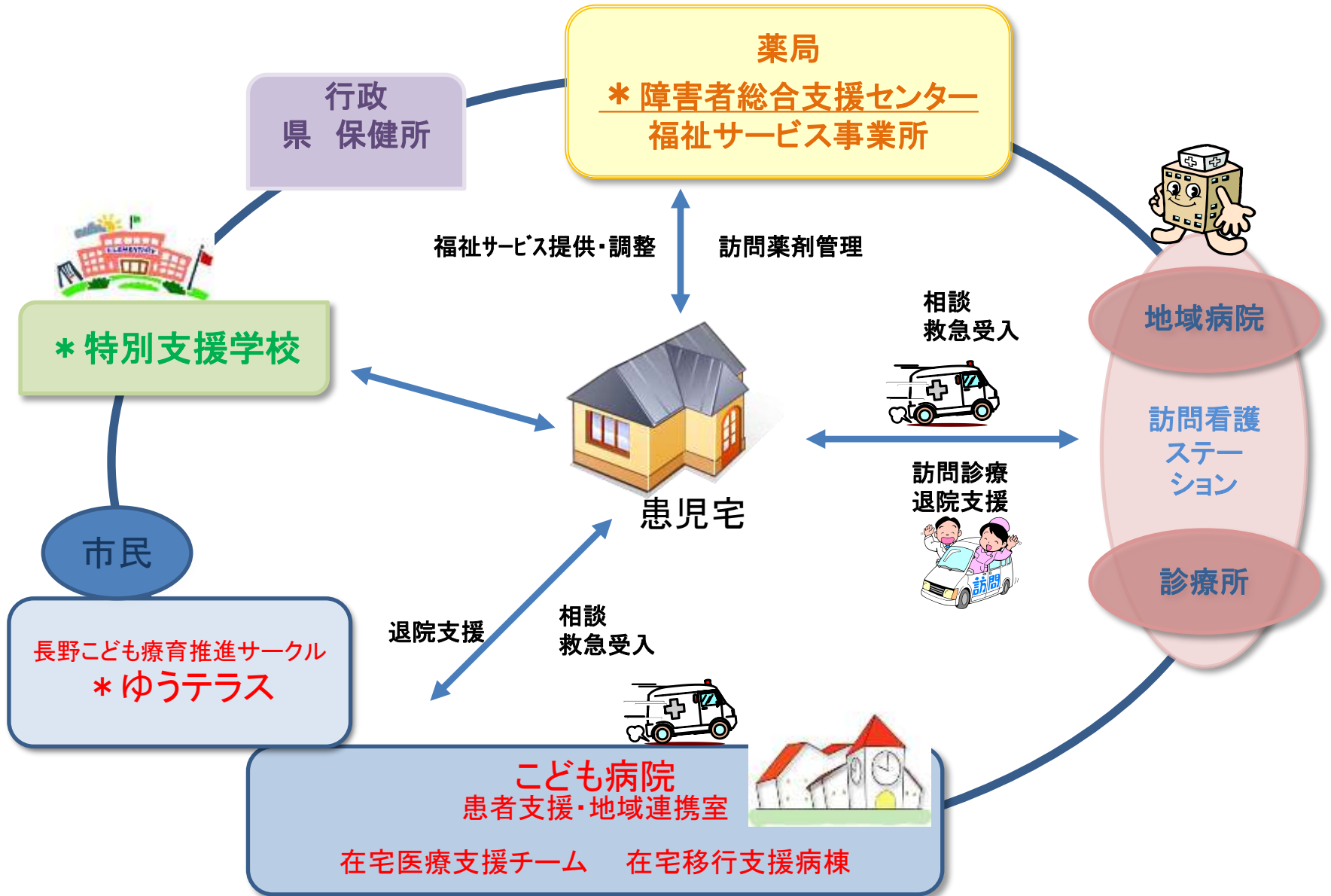
他の多職種との協力体制

病院(前医)パラメディカル家族の協力があれば  
保護者が疾患について十分に理解している場合

経験が少ないため指導があれば



# 小児在宅医療連携



# こども病院の態勢

## 患者支援・地域連携室

- 室長(副院長)
- 看護師 2名
- 保健師 2名
- MSW 2名
- 事務 2名

## 在宅支援病棟 11床

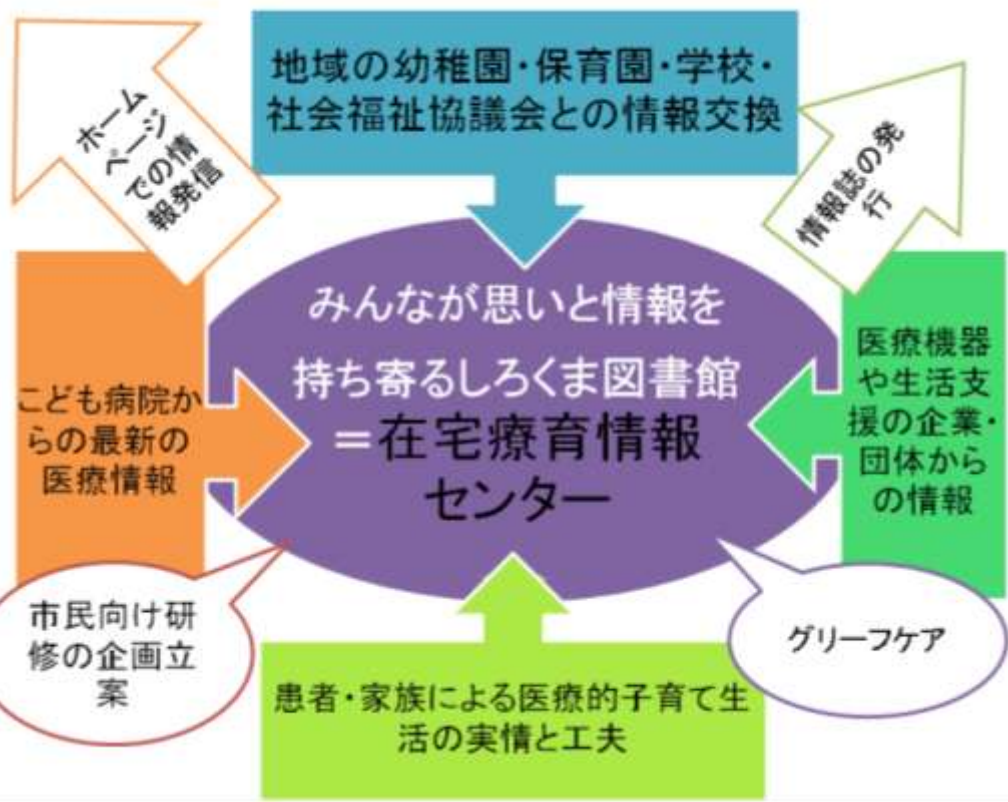
- 2009年2月開設
- 病床利用率  
71.7～78.2%

## 在宅医療支援チーム

- リーダー:リハビリテーション科部長 1名
- 副院長 2名
- 麻酔科医師 1名
- 総合小児科 2名
- 在宅支援・新生児・  
一般小児病棟看護師 3名
- 外来看護師 1名
- 理学療法士 1名
- 薬剤師 1名
- 医療ソーシャルワーカー 2名
- 患者支援・地域連携室看護師 2名
- 患者支援・地域連携室保健師 2名
- 長期入院児等支援コーディネーター 1名



# 長野こども療育推進サークル 「ゆうテラス」



## あしあとてらす

2012年冬号



学校へ行きたい！3にんのあしあと  
～重い障害を持つ子のための教育  
医療的ケアってどんなもの？  
～胃ろう編～



# 事業 その1

- 多職種参加の小児長期入院児等支援対策協議会・連絡会
  - 長野県健康福祉部こども・家庭課主導(h22~24年度)
- 施設への在宅支援訪問（対象患者の把握と技術指導）
  - メンバー：医師、看護師、保健師、理学療法士
- 「ゆうテラス」との協働による研修会・学習会の開催、情報発信基地設置
- インターネットオンライン会議による患者、養護学校、事業所との連携
  - 情報交換、リハビリ技術指導
- 個別支援手帳電子ブック版の開発←失敗





# 事業 その2

- 24時間対応の在宅医療提供体制
  - 在宅支援病棟11床開設(2009年2月) 維持
  - 救急外来の態勢強化(2012年夏)
- 標準的、効率的な医療提供の方策
  - 在宅医療的ケアに関するマニュアル作成・配布
- 地域住民への普及啓発と医療従事者に対する教育・研修
  - 在宅療育情報センター(ゆうテラス)を核として立案・運営
  - 胃瘻DVD等のマニュアル作成
- 地域の医療関係職能団体等との連携
  - 多職種参加の小児長期入院児等支援連絡会(前出)
  - 薬剤師会との連携会議



# 長期入院児等支援連絡会 メンバー

## 長野圏域3回 松本圏域3回 上田圏域1回

		施設名	出席者	
1	医師会・薬剤師会	松本市医師会	副会長	
2			連携医(小児科)	
3			常務理事	
4				
5			会長	
6			理事	
7				
8	医療	こども病院	院長	原田 順和
9			副院長	中村 友彦
10			副院長	藤岡 文夫
11			MSW	丸山 昌子
12			看護師	荒川 絳子
13			MSW	武井 英志
14			事務	六川 絵美
15		松本小児科医会 松岡小児科医院	医師	
16		あかはね内科・神経内科医院	院長	
17		城西病院	理事長・総長	
18		信州大学医学部附属病院 小児科	医師	
19				
20		信州大学医学部附属病院 医療福祉支援センター	ソーシャルワーカー	
21		まつもと医療センター 中信松本病院	統括診療部長	
22	小児科医長			
23	児童指導員			
24	ソーシャルワーカー			
25	相澤病院 小児科	小児科医長		
26	松本協立病院			
27	訪問看護	丸の内訪問看護ステーション	所長	
28			看護師	
29		松本西訪問看護ステーション	看護師	
30		相澤訪問看護ステーションひまわり	理学療法士	
31		松本協立訪問看護ステーションすみれ	理学療法士	
32		山形協立訪問看護ステーションなでしこ	看護師	
33	障害者相談支援センター	障害者総合相談支援センターあるび	コーディネーター	
34		障害者総合相談支援センターWish	所長	
35		障害者総合相談支援センターボイス	コーディネーター	
36		障害者相談支援センターびあねっと・まつもと	アソシエイト・兼相談支援専門員	
37	施設	松本市しいのみ学園	園長	
38		ほっぷライフ	係長	
39	教育	松本養護学校	訪問教育担当	
40			教育相談担当	
41		安曇養護学校		
42	行政	松本児童相談所	主査保健師	
43		松本市		
44		塩尻市		
45		安曇野市 子ども発達支援相談室	保健師	
46		長期入院児等支援コーディネーター	医師	
47		松本保健福祉事務所		所長
48				課長
49				課長補佐
50				係長
51				保健師
52		研修医		

松本圏域 参加者



# 長期入院児等支援連絡会 内容

- 市町村福祉サービスの現状
- 医療的ケアの必要な子どもと家族への在宅生活支援の現状
- 障害児の相談支援体制について  
～児童福祉法の一部改正の概要等～
  
- 重症心身障がい児・者シンポジウム(社会福祉士会との共催)
  - 長野県における重症心身障がい児者の暮らしを考える
  - 医療的ケアのある人の地域生活支援  
～医療的ケアのある人を支えるグループホームの実践～
  - シンポテーマ「**ここで暮らし続けたい！そのために・・・**」
  
- 地域における療育支援の現状
- 特別支援学校における医療的ケアの必要な子どもへの支援の状況



# 在宅支援訪問

## 派遣スタッフ

- 長期入院児等支援コーディネーター（医師）
- 患者支援・地域連携室 看護師長
- 理学療法士

- 2011年度
  - 長野赤十字病院 毎月1回
- 2012年度
  - 佐久総合病院
  - 信州上田医療センター
  - 浅間総合病院
  - 斎藤診療所
  - つむぎの家
  - 伊那養護学校



# 2012年度に開催した研修会等

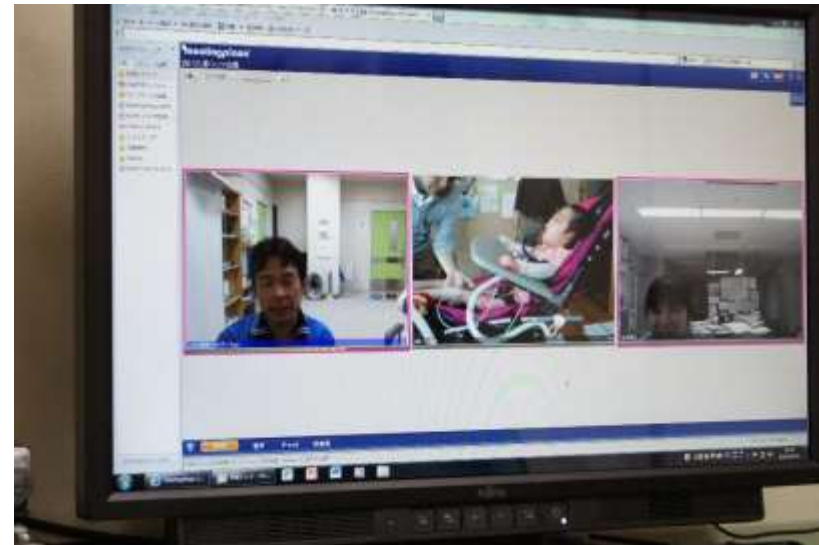
小児在宅療育研修会(7/26): 障害を持つ子どもたちのための遊びと絵本	20名
挿管している子どもたちの口腔ケア(8/8・9)	17名
障害を持つ子どもたちの口腔ケア(9/20)	19名
胃ろうと栄養(9/1・11/17)	20名+19名
障害や病気を持つ子どもたちの教育を考えるシンポ(9/30)	
重症心身障がい児・者シンポ:ここで暮らし続けたい! そのために...	150名
呼吸理学療法(10/13・12/8)	24名+16名
在宅医療を支える医療機器展(11/17)	
地域連携懇話会:開業医が進める小児在宅医療~その意義と実践~(1/31)	55名
小児在宅療育推進シンポ:多職種協働で作ろうよりよい療育環境(2/23)	70名





# インターネットを利用したオンライン会議

- 長野養護学校 8回
- 安曇養護学校 2回
- 松本養護学校 2回
- 中信松本病院
- 信濃医療福祉センター
- 佐久総合病院
- 伊那中央病院
- 信州上田医療センター
- 飯田市立病院
- 療育センターらいふ
- 療育センターみらい
  
- 訪問リハビリ時患者宅(3人・4回利用)
- 養育者支援(1人10回利用)



# 関連団体・機関との連携

## ■ 薬局との連携

- 長野県薬剤師会研修会 2012年5月27日
  - 調剤薬局薬剤師50名
  - こども病院の院外処方箋剤について
- 長野県薬剤師会との会議 2012年11月15日
  - 薬剤師32名、県薬事務局課長
  - あづみの薬局における訪問薬剤管理指導業務事例報告
  - 外来患者のTPN製剤
  - 在宅介護支援薬局マップ紹介

## ■ 歯科との連携

- 障害や病気を持つ子どもたちのための歯科・口腔ケア研修会  
2012年9月20日

## ■ 救急消防機関との連携

- 小児在宅医療患者緊急搬送時の救急連絡カード作成  
(2013年6月開始予定)



# 救急情報提供カード(A5版)

**救急車を呼ぶときは119番に電話!**  
(できれば固定電話 ☎ から)

住所 松本市 XXXXXXXXXX

保護者の名まえ XXXXXXXXXX

**人工呼吸器をつけて  
在宅療育中の**

こどもの名まえ XXXXXXXXXX です。

生年月日は H16年 2月 2日 です。

**\* 状況を説明する**  
例えば  サチュレーションが急に下がりました。  
 息をしません。  
 心臓が止まっています。 など

**\* 今行っている処置を説明する**  
例えば  心臓マッサージをしています。  
 アンビューバッグで換気しています。 など

第1救急搬送病院は 長野県立こども病院 です。  
☎ (0263) 73-6770

第2救急搬送病院は XXXXXXXXXX です。  
☎ ( ) -

※緊急度によっては記載していない近隣の病院に搬送されることもあります。

**救急情報提供カード**

こどもの名前 XXXXXXXXXX

保護者の名前 XXXXXXXXXX

住 所 〒390 XXXXXXXXXX

電 話 番 号 (0263) XXXXXXXXXX

**※ 疾病名**  
脊髄性筋萎縮症

**※ 手術歴**

**※ 普段飲んでいる薬**  
・タケプロン  
・オノン  
・テグレトール  
・エルカルゲン

**※ 気管切開**  あり ・ なし

**※ 喉頭気管分離** している ・  していない

**※ 胃ろう**  あり ・ なし

**※ 特記事項** 普段急変した時におこなっている処置 その他  
例 けいれん発作時の薬と量・吸引チューブの太さと深さなど  
・移動時骨折に注意(首・腕・足)  
・吸引チューブ 鼻 8F 深さ10cm ・気管 8F 深さ 8cm  
・気管切開 チューブ Xラフィット SP

さらに詳しい情報は ながの県立こども病院 リハビリ 科  
☎ (0263) 73-6700 に問い合わせを  
次回内容更新 年 月



# 標準的かつ効率的ケア提供の方策



胃ろうDVD



半固形食指導用DVD



# 長期入院児数(6か月以上)とその転帰

	新規	在宅へ	在宅移行 目的入院	転院	入所	死亡	入院中
H21年度	14	4	0	4	0	6	0
H22年度	16	8	2	2	2	1	1
H23年度	13	6	1	1	2	1	2
H24年度	18	4	1	4	0	3	6

\* 24年度増加原因: 重症児の増加と入所待ち





# 24年度事業 感想

- 多職種の「顔の見える関係」ということは大切。どの職種の方もまず現場で会って話すことから始めるべき。
  - もし拠点が病院なら、現場の「他」職種の方々は医師の積極的な院外活動を望んでいることを知るべし。
- 
- ① 行政と医師会の連携は重要
  - ② 市民との協働は重要な視点
  - ③ 養護学校を最重要連携拠点として
  - ④ 障害者相談支援専門員との連携（医療と福祉の連携）
  - ⑤ コーディネーターが必要  
広域を俯瞰的にみて調整する人材（医師または保健師）

